

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100043
法人名	有限会社田代総合サービス
事業所名	グループホームなごみ吉志
所在地	福岡県北九州市門司区吉志1丁目8番42号
自己評価作成日	平成27年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/indexphp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成27年12月23日	評価結果確定日	平成28年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①利用者様が”快”と思う、感じることを優先しております
- ②利用者様と介護者が家族的(親、子、孫、嫁)関係の状態での、アットホームな介護現場を維持!
- ③職員のスキルアップ向上を常に図ることで自己能力を研鑽しています

※自然環境の残っている立地にて施設の裏側の川には、時季になると、白鷺が時々飛来したり、鴨が数羽 泳いでいます
また、近隣の小学校の生徒の可愛い姿や元気な声が聞こえ、夏になると川で小魚を子供達がすく姿がみえます。
一方では住宅街が広がり、少し歩くとスーパーや公園、他施設が隣接して「静・動」両面が・・・兼ね備わった恵まれた環境化の中で、利用者様と共に毎日を過ごしております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームなごみ吉志は、幹線道路沿いの住宅地の一角に位置する2階建て1ユニットの事業所である。近隣には小学校や公園、スーパーを始めとする商業施設があり、比較的社会資源に恵まれている。近隣住民とも日常的に交流があり、地域の一人として認知されている様子である。階下には同一法人運営の小規模多機能型事業所があり、職員は、平素から運営推進会議を始め、研修会、防災訓練等、連携を深めている。また地の利を活かし、日常的に散歩や買物等、外出の機会を設けており、暮らしの充実に努めている。計画的に実施される内部研修(勉強会)は、職員が持ち回りで担当し、資料作りや発表を行っている。報告書についても、成果と課題を明示し、次につながる仕組みの構築を図る等、主体性を感じるものである。また毎月家族宛に、手紙形式で一人ひとりの様子を記した「お便り」を送付する等、情報発信にも努めている。日々の記録、計画書についても詳細な記述が確認出来、労を厭わずサービス提供に努める職員の誠実な姿勢がうかがえる。職員間の連携も良く、相談や提案をし易い雰囲気にあるとのことで、実際に会議やカンファレンスでは、忌憚のない意見交換がなされている。日常業務の中で、職員一人ひとりの特技を活かす機会もあり、働きやすい職場であることがうかがわれる。以上、本事業所は、入居者が暮らしやすく、職員が働きやすい場所として、地域に根差しており、今後が益々期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の基本である“目配り・気配り・心配り”を常に念頭におき、管理者と職員は理念を共有し実践にむけて・・・取り組んでいる	理念は、設立時から作られ、職員は入職時に必ず説明を受ける。職員は、理念の振り返りを通して、入居者との日常的なかかわりの中で、言葉ではなく、表情や動きの中から、思いや意向を汲み取ることに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内の中学生体験学習を受け入れ、利用者様と・・・交流実施。また、近くのスーパーでの買い物の際には店員さんと顔見知り、馴染みになって利用者様および施設の存在を知って頂けるように努めている	日頃から散歩や買物時の挨拶、何気のない会話を通して、次第に顔見知りになり、地域の一員として認知されている。近隣の小学校の行事見学や、中学校の実習受け入れ等、交流の機会も定期的にもたれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの運営理念や、役割が地域に理解されるように啓発・広報に取り組んでいる。通りに、面してホームの看板がよく見えるようにしており、見学希望者の対応に快く応じている。また・・・福祉を目指している高校生実習を受け入れ、介護に関することを指導している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様のサービスの実施、評価への取り組み状況などについて報告、話し合い、そこでの意見を記録に残し、サービス向上に活かしている『包括職員・警察官・民生委員・利用者ご家族』等	階下の小規模多機能型事業所と合同で2ヶ月に1回実施している。入居者の状態や、運営状況の説明、活動報告、質疑応答等を行っている。事業所としては「報告に偏りがち。課題に苦慮している」との認識を持つが、議事録からは、忌憚のない意見交換の様子が確認出来る。	活発な意見交換もなされていることを踏まえ、事業所が課題と捉えていることについて、積極的に問題提起をしたり、地域の課題について問い掛ける等、地域の一員としての積極的、かつ柔軟な働きかけを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村(区役所)に、日頃から行き来する機会をつくり担当者と共にサービスの向上に取り組んでいる ・市町村主催の催事および研修案内に参加する ・地域包括支援センターとの情報交換 ・介護保険更新手続き、訪問調査依頼	平素から行き来し、報告や相談、情報交換等を行っており、「顔の見える」良好な関係を築いている。市主催の行事や研修会等についても、積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を、正しく理解している”やむおえず”の場合に関しては、ご家族との話し合いで [身体拘束に関する説明書]の記載要綱を熟読の上、許可を頂位で取り交わすようになっている	「契約書」及び「重要事項説明書」記載の内容に則り、原則、身体拘束をしないケアに努めている。止むを得ない場合については、家族に説明を行い、了承を得ながら検討する方針で対応している。以前は対象者がいたが、現在はいないとのことである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	プロの介護者として意識を常にふまえ利用者様に接しており、身体的および言葉による暴力等も行わないことを心掛けている。状況により、声かけが雑に、なった時等・・・後でスタッフ同士で注意したりミーティングの際、議題に挙げ検討・反省している		

福岡県 グループホーム なごみ吉志

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について研修参加し研修内容を勉強会の中に取り入れ職員間で把握し理解できるように努めている	制度については、契約時、必要に応じて説明を行っている。以前、制度利用者がいたことにより、職員は制度の内容や意義、必要性について理解している。また研修会参加や勉強会を通じて、更なる周知に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの運営理念を契約時に説明し、また文書内容をホームの見えやすい場所に明示している。入居後もご家族に疑問点があれば詳細に説明し、納得して頂くようにしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情等を受け入れる窓口を設けており、ご家族の意見を尊重することでケアの改善に努めている。また・・・家族会を開いて参加していただき その折に意見交換をしている。ただ、運営推進会議には残念なことに、ご家族の諸事情により参加が少なくない	面会時や家族会(1回/年)を活用して、努めてコミュニケーションを図ることで、入居者や家族が意見や要望を述べ易い雰囲気作りをしている。出された意見については、職員間では話し合い迅速な対応を行っている。また一人ひとりの様子を記した「お便り」を毎月、家族に送る等、情報発信にも努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的ミーティングや勉強会を開き、意見交換や情報提供、およびケアの改善などを話し合う事で業務改善をスムーズに行えるように努めている	毎月のミーティングや勉強会の際、活発な意見交換や提案がなされている。また日常的にも意見が多く出されており、出された意見については、職員間で話し合いながら、反映されるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間のチームワークにて、楽しい職場となっており職員には常に研修参加によるスキルアップに努めている。また労働時間、シフト作成については負担を少なくし、心身の健康面を考慮。また昇給・ボーナス福利厚生と行(忘年会、新年会、歓送迎会、その他)		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用にあたっては年齢や性別の制限は、してなく、事業所で働く職員には個々の能力が活用できるような環境の場を設けており、職員一人一人の尊厳も保たれている	職員の採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。定年もなく、退職は本人申告制とのことで、年齢を重ねても安心して働ける職場である。また職員へのヒアリングから、職員一人ひとりの特技を業務の中で発揮し易い雰囲気作りがなされている事例が具体的に語られ、働きやすい職場作りがなされていることがうかがえる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内外研修参加を推奨し、職員の自己向上についてバックアップをすると共に指導、責任を啓発している。また、職員同士の調和もできている	毎年計画的に実施される施設内研修の課題に「虐待防止」や「身体拘束」等のテーマを設定し、事例通して学ぶ機会を確保している。併せて外部研修を活用して人権について学ぶ機会を設け、理解と周知に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為に、内外の研修参加を職種や経個々の必要性を尊重、及び重視して計画実施をしている。また、状況に応じ管理者は個人面接を行って職員の悩みなどの相談も受けている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会及び施設外の研修参加に於いて他施設との情報交換の中から、プラスになる点を取り入れ、サービスの向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者個々の心身状態を、ご家族から情報収集して状態把握し個人に合った対応や、考慮に努めている。合わせて『傾聴・共感・受容』を重視対応している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、後…家族の意見や要望を受け入れ、納得いただける説明を行い、関連書類などを提示するなど不審・不満感を除去し信頼関係を、築いている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態像・生活歴、入居者と家族の求めていることを受け入れ新環境の中、心身共に無理なく順応できるように支援している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が一体となって、家族関係的な状況の中で過ごしていただき、その中でも尊厳を損なうことなく一定の規律を守り対応に努めている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密に保ち、必要に応じての電話連絡及び毎月“ホームだより”に、心身状態や生活関連の情報を送付し利用者様の現状が家族が把握できるよう工夫している		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出および個々に応じた、リハビリ・室内外でのレクリエーション、年間行事をひと月ごとに予定し実施。また医療との連携、受診対応、理髪、その他と多くの柔軟な支援に取り組んでいる	家族や友人、知人の来訪の歓迎を始め、往時がしのばれる場所を訪れたり、理髪店等、通い慣れた店を利用したりしながら、その人にとって大切であったり、馴染みである人や場所との関係が途切れないよう取り組んでいる。また一人ひとり内容の異なる「事業所便り」を毎月家族に送り、情報発信をしながら、関係性の継続に主体的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	介護度、認知度、身体状態を常に職員が把握対 応して利用者間の調和、トラブル防止に努め利 用者の関係がうまく図れるよう留意している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居、他施設への移動後も電話連絡しており、 その他フォローを行い家族との相談、連絡維持 している(ご家族様の意向および、要望によって 臨機対応)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	一人ひとりの人格を尊重し、本人の能力に合わ せた対応支援。また、身体面の安楽を常に重視 しながら傾聴、受容共感を、常に心にとめている	日々の暮らしの場面での会話や行動、何気ないしぐさ の中から一人ひとりの思いや意向の把握に努めてい る。併せてアセスメントでは、生活歴の把握を始め、家 族、関係者の意見を参考にしながら、潜在化するニー ズの掘り起こしを行い、本人本位の支援につながるよう 努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	利用者様の生活歴、背景、職業、経験を情報収 集しメモリーケアに努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録を職員間で共有し、本人のペー スや心身状態に応じた個別的ケアをしている。 「リハビリ・テレビ鑑賞・散歩・買い物・仮眠・・・ま た徘徊のある方には、見守りしながら自由行動」 など		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人の心身状態の変化、家族の要望や意見な どを反映させ、月に一度のカンファレンス、ミー ティングに於いてアセスメント・評価、課題分析し て介護計画を作成している。合わせて心身状態 の大きな変化には臨機応前後して、ご家族に連 絡相談の形もとっている	日々の「介護記録」には「観察事項」に併記する形で 「介護者が考え行動したこと」を記載する欄が設けられ ており、支援過程の共有化が図られている。カンファ レンスでは、一人ひとりの状態について忌憚のない意見 交換がなされ、より本人本位で、現状に即した計画とな るよう努めている。計画書についてもサービス内容が詳 しく記載され、細やかにニーズを把握していることがう かがえる。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に残し心身状態の変化等、職員間で 内容を共有し業務に反映させ、それを元に介護 計画、ケアの見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスの捉われぬ、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出および個々に応じたりハビリティや、室内外でのレクリエーション、年間行事をひと月ごとに検討計画し、実施している。また医療との連携・受診対応理髪等、その他多くの柔軟な支援に取り組んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防署協力の火災非難訓練、警察署の協力や、市民センター利用、近隣スーパーに利用者様と買い物。また公園での散策など、地域資源の存在を有意義に活用させてもらっている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診と合わせて、身体状態によりその他の専門医との連携と受診を維持しながら常に入居者様の健康管理に努めている	かかりつけ医については、本人・家族の希望に応じて複数の協力医療機関の中から選択している。往診については月1～2回、一人ひとりの状態に応じて実施されている。また受診についても本人や家族の希望に応じて職員が同行するなど、本人が安心し、納得出来る適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さまの身体異変に際しては、すぐに対応できる状態にある。利用者さまの健康状態や管理など記録し3ヶ月毎の看護計画作成及び介護者にケアポイントを指導し対応協力体制が整っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報提供、相談できる状況状態を維持できており、施設関係者は率先して”お見舞い”に行きコミュニケーションを維持している。また、出来るだけご家族の負担軽減として職員が雑務対応(衣類の洗より職員で、即アセスメントを行い活かしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末に関する対応方針を定め、家族・医師や看護師を交え、話し合いのできる状況を確認して、入居者の終末期を安楽維持推進できるように、職員の指導を含め、“チームケア”に努めている	看取りについては、事業所独自の方針を定め、文書化し、本人・家族に説明を行っている。これまで看取りを行ったことはないが、家族の希望があれば対応出来るよう職員は日頃から意識し、業務に当たっている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成をしており、事故発生時及び利用者様の急変時の対応、処置の意識・行動を徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年に2回)消防署の協力と共に、避難訓練を実施し避難先の確保、とっさの対応確認などの見直し。また講習参加や勉強会およびミーティング時に公開し職員間に浸透意識化している。それと職員個々に災害時、何をすることができるよう連絡網を設けている	年に2回計画的に訓練を実施しており、内1回は消防署の立ち会いや、夜間想定訓練が行われている。高齢者の多い地域の課題を踏まえながら、運営推進会議にて協力を呼びかける等、主体的に取り組んでいる。	運営推進会議を活用して、地域に協力を呼びかける等の取り組みを行っていることを踏まえ、その継続した取り組みを通じて、地域との連携強化を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の徹底に努め、利用者さまを尊重する気持ちを大切にすると共に介護者としての守るべき態度を認識し個人情報保護についての把握をしている	アセスメントや日頃の暮らしぶりから知り得た一人ひとりが有する「その人らしさ」を尊重した言葉掛けや対応に努めている。また計画的に実施される内部研修や外部研修を通して、職員間で理解を深め、周知を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さまの尊厳を重視し個々の身体状況に応じた対応に努め、コミュニケーションを図り本人からの主訴要望を尊重し受け入れている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さまの心身状態を把握し、その時々感情・気分も考慮し個々のペースに合わせた対応をしている。(リハビリ、生活動作、排泄入浴、食事、その他)		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師による定期的訪問カットを実施。また、常に洗濯したての清潔な衣服の着衣ができるよう配慮している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いのできる方には食材(モヤシのひげとりや枝豆の皮むき、ゆで卵の皮むき)等をして頂いたりまた身体機能に合わせた食形態の配慮や旬である季節食材を使ったり、年間行事に合わせて献立の工夫を実施中。(正月、お雛様、敬老の日、誕生日、その他)	献立は栄養士が作成するが入居者の希望にも応じている。また刻み食やミキサー食等、一人ひとりの状態に応じた提供を行っている。調理については、以前は入居者と職員と一緒にいたが、現在では困難になっているものの出来る範囲で準備や片づけを行い、職員もフォローをしている。また計画的に外食に出掛ける等、食事を楽しむ機会も設けている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成の献立により、必要カロリーの確保維持が出来ている。それと必要水分量の摂取についても確保出来ている(フロシートに記録)※摂取時間は個々に応じ、柔軟な対応維持して※専門業者による食材宅配を受けている		

福岡県 グループホーム なごみ吉志

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実行！できない人には、機能に応じ職員が介助。、入れ歯は夕食後にポリデントにて消毒。また、週1回の歯科医往診にて異常チェックや通常では見落としがちな部分のケアチェック、口腔訓練、および嚥下訓練の指導も受けている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時的にトイレ誘導にて自然排泄できるよう、排泄表を確認して実施中。また利用者様の状態によっては職員複数での対応を心がけたり、自然排便(便秘)が困難な方には穏下剤を使用し定期的に排泄できるよう支援している	排泄確認表をもとに、一人ひとりのパターンや習慣を把握し、言葉掛けを行いながら、排泄の自立に向けた支援を行っている。実際、日中は全員トイレにて排泄を行い、夜間帯についても一人を除きトイレを利用している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質食材、水分摂取、運動、腹部マッサージなどで腸の蠕動を促進。及び緩下剤の与薬等に対応している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	更衣室、浴室の室温保温調整及び安全確認の把握に努めている、週3回の入浴を実施しており必要に応じて適宜対応。また、利用者様の要望により、時間の変更をしたり利用者様優先を基本としている。留ったりしな声かけをしたり背中を流してあげたりしている」	基本的に週3回午前中に入浴を実施している。希望に応じてシャワー浴だけの方もおり、柔軟に対応している。職員都合ではなく、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて時間等を調整し、随時言葉掛けでコミュニケーションを取りながら、快適な入浴となるよう努めている。入浴拒否をされる方についても、タイミングを見計らいながら言葉掛けをする等、工夫を凝らした対応を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の採光調節、室温調節、心地よい寝具、寝衣(日光に当てる、常に洗濯した清潔寝衣)配慮しているまた、日中の心身の活性化にて安眠につなげている。それと車椅子利用者や高齢の方には安楽、体圧分本人が楽な姿勢が保てるように配慮している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の準備、与薬時には複数の職員でチェックをして 与薬するときも、職員間で声を出して その都度・・・ 「日付・服薬者名・朝昼夕眠」の確認をしている。それと、定期的に目を通し処方薬の内容を確認する		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さまの機能に合わせた役割分担をしてい(食器拭き、おぼん拭き、洗濯ものたたみ洗濯干し掃除、園芸)また、外出希望のある方には出来るだけ希望に沿ったり、天候に合わせ戸外散歩実施。また年間行事を作成して催事・ドライブなどを実施している		

福岡県 グループホーム なごみ吉志

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	NO,50と重複するが、天候に合わせて近隣の散歩や買い物などを行っている	一人ひとりの希望や状態、天候に合わせて、日常的に近隣の散歩に出掛けている。マンネリ化しないようコースを変えたり、スーパーへの買物を組み込む等、工夫を凝らしている。また計画的に行事や季節のドライブ、外食を実施したり、買物についても複数の商業施設を訪れる等、個別対応で外出の機会を設けている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の心身の状態により殆どが施設での預かりとなっている。必要な買い物など家族に、了解を得て買い物ができる利用者様には職員が同行する。また、医療費、理容代なども職員が預かり金の中から対応している。その管をして頂き、サイいただいている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎや本人が外部に連絡する時などはプライバシーを保ち快く対応している(機能維持の利用者さまに限り)		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に関する作品や生花を飾って、家庭的な雰囲気づくりに努めている。日中に於いては、リビング内で利用者様達が、テレビ観賞、会話等を楽しめるように生活感、季節感のある空間を維持できるようにしている・季節に・現スペース範囲内での拡充空間の工夫	リビングは、動線を意識したテーブル等の配置や、季節の飾りを手作りし飾る等、暮らしに動きと彩りがあるよう配慮されている。また和室スペースやベランダもあり、くつろげる個々の空間も確保され、居心地の良い空間作りに努めていることがうかがえる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	疲れて休みたい時には・・・その都度、自室で過ごしリビングで終日過ごすなど、個々に応じた居場所の確保ができています。また、食事・歌・ゲーム・リハビリレクリエーションと、リビングに於いて利用者様が多用活用して過ごしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人の使い慣れた家具等を持ち込むようにして、自分の家と変わらないよう(過ごしやすい)空間づくりをしている(その他・・・家族の写真・ぬいぐるみ・備品)等	各居室には、入居者の使い慣れた物や好みの物が持ち込まれており、一人ひとりの暮らし慣れた空間の再現が試みられており、本人本位の環境作りがなされていることがうかがえる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に、個人の名前・浴室・トイレなどの明示と“バリアフリー”の施設内での設備徹底に配慮しているそれと利用者様の行動については、常に職員が注意しリスク防止の徹底を図っている。その他、残存能力を活かして、利用者様のできること支援している		